



## 観る・遊び・学ぶin福岡

—大学を観光資源として活用したまちづくり

### 福岡の特徴

#### 特徴

の一 福岡・北九州大都市圏は人口で東京、大阪、名古屋に次ぐ日本国内第4の都市圏を形成しており、福岡市は経済、行政、金融、情報、レジャーなど高次の都市機能が集積している。また、福岡市は、中国、韓国など北東アジアとの結びつきが強く、これらの地域との間において、国内における潜在的優位性を持っているものと考えられる。

#### 特徴

の二 国際観光・コンベンションシティとしての実績も積み上げてきている。国際的な人の動きとしては、アジア、中でも中国そして韓国との間を中心として大きな伸びを示しており、福岡市はこれらの地域からの受入窓口となるとともに、交流・人材育成の拠点となっている。福岡に在留する外国人の在留資格見てみると、特別永住者が2002年末まで最も多く、第2位は留学となっており、留学生が多いことが福岡市の特徴となっている。

#### 特徴

の三 学術・文化・人材育成の潜在能力がある。①教育機関等の集積：福岡市には、大学・短期大学等の教育機関や研究機関が集積しており、人口1,000人当たりの大学生数は京都市に次いで指定都市中2位となっている(2002年)。②留学生の集中：大学等の集積から福岡市の留学生の数は、この10年で2倍以上に増加し、福岡県全体の55.4%を占めている(2002年)。また、前述の学生数と同じく、人口1,000人当たりの数は、京都市、仙台市に次いで指定都市中3位となっている(2002年)。

参考資料：福岡市国際化推進計画(2003年6月策定)

### 提 案

複合的機能を生かした都市観光、開放性やもてなしの心に溢れたサービスが提供されることにより、魅力に満ち、熱気と活力に溢れた国際集客文化都市をめざす。福岡市の教育機関と連携し、福岡都市圏の大学(19校)のキャンパスを観光資源として活用し、毎週の土、日曜日に外国観光者に向け、オープンキャンパスを実行し、現役の大学生を案内ボランティアや通訳ボランティアになり、日本の大学生と率直に話し合える交流会など実質的な交流の機会を提供する。これより日本に留学したい外国の青少年および家族に日本・福岡の教育システムや生活環境などについて理解を深める学習機会を実現できる。

### 期待される効果

#### 効果

の一 将来日本で学びたい外国の青少年はキャンパス観光により、日本の教育や大学システムについて理解を深めて適切な大学を選択することができる。さらに、日常生活や対人関係の中で生じる摩擦や誤解を軽減し、不法滞在及び犯罪行為を予防できる。

#### 効果

の二 大学生はボランティアをしながら自然に将来国際社会で活躍できるように語学力を養う。外国語の学習支援を充実することができる。

#### 効果

の三 多くの大学生は実際活動の参加により国際交流・協力活動に関心が高まる。

